



赤嶺 雅和 議員

特定健診の受診率向上を

答 ナイト健診や日曜健診を行っている

問 本町の特定健診の受診率はどうか。また受診率を上げるための対策はあるか。

副町長 平成27年度の受診率は48%である。受診率を上げるための対策としてナイト健診や日曜健診を行っている。未受診者に対して、電話や個別訪問、広報車によるお知らせ、自治会の協力員と連携し受診勧奨に取り組んでいる。受診後の結果は、保健師、管理栄養士が個別に訪問している。重症化にならないよう指導している。健康増進にかかる事業として、がん検診や骨粗しょう症検診、はり、きゅう、あん摩、マッサージの施術費の助成を行っている。

問 特定健診や長寿健診の受診率と年代別の受診率は把握しているか。

国保年金課長 特定健診の受診年齢は40歳から74歳までとなる。75歳以上は長寿健診となる。年代別のデータはまだ出していない。

問 医療費の推移はどうか。

国保年金課長 1人当たりの医療費が23年度は27万7309円、24年度は28万5692円、25年度は30万3137円、26年度は30万8331円、27年度は32万1279円となっている。

特定健診受診者数

	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27
対象者数	5,673 人	5,723 人	5,770 人	5,758 人	5,585 人
受診者	2,697 人	2,568 人	2,776 人	2,702 人	2,681 人
受診率	47.5%	44.9%	48.1%	46.9%	48.0%

子どもの貧困問題現状は

問 子どもの貧困問題の原因は何か。

副町長 県が公表した子どもの貧困率は29.9%である。背景としては次の理由がある。
① 産業振興の遅れ、失業率が高水準で推移したこと
② 1人当たりの県民所得が全国最下位であること
③ ひとり親世帯の出現率が高いこと

本町も同様の理由であると思われるが、町独自のデータはない。不適切な養育環境や虐待、社会的な孤立などと経済的な貧困が結びついて派生すると考えられる。本町では子どもの貧困が次の世代に連鎖しないように、子ども元氣支援補助員を2人配置している。支援を必要とする子どもの居場所づくりとして、中学校区に一つずつ子ども元氣ROOMを設置し対応している。